

ナシの病害虫の発生状況（5月） 調査地点：中通り 20 園地、浜通り 10 園地

(1) ナシ黒星病

果そう基部での発生ほ場割合は、平年よりやや低い状況でしたが（図1）、果実での発生（果面での発生が多い）を確認した事例が複数ありました。

発病した果そう基部・葉・果実は、見つけしだい除去することを徹底しましょう。今後、梅雨に入り、降雨の多い時期となるため、天候に留意して降雨前の散布を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう。特に、「幸水」では、果実の感受性が高まる時期（満開後 50～90 日）を迎えるため、防除を徹底しましょう。

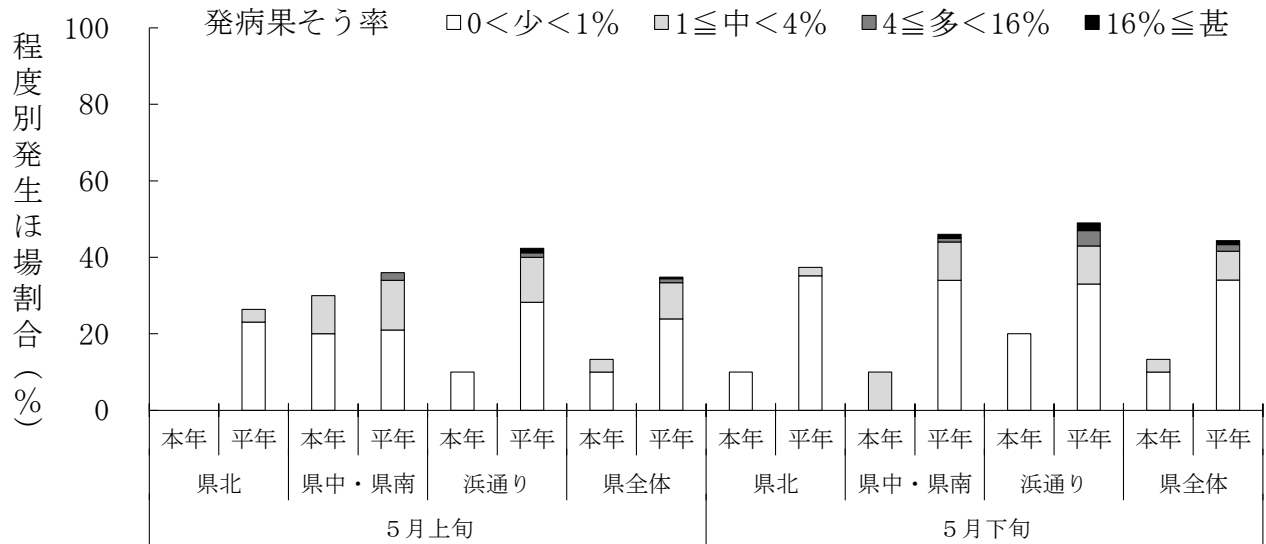


図1 ナシ黒星病の果そう基部病斑の発生状況（5月上旬、中下旬）

(2) アブラムシ類

新梢寄生の発生ほ場割合は、平年より低い状況でした（図2）。

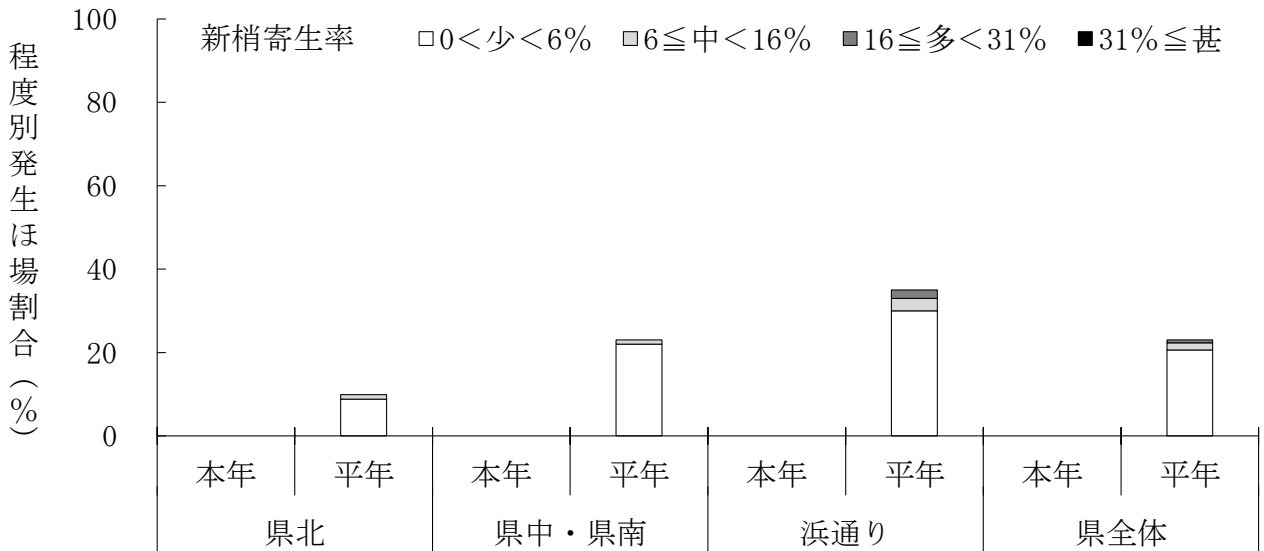


図2 アブラムシ類によるナシ新梢の寄生状況（5月中下旬）

(3) ハダニ類

新梢葉への寄生は、確認されませんでした。

(4) 果樹カメムシ類

ナシへの飛来は、確認されませんでした。指標植物（サクラ）への飛来は、石川町でクサギカメムシおよびチャバネカメムシを確認しました。